

斬新なアイデアによるイノベーションの重要性を実感

日刊工業新聞社 編集局 科学技術部長 縄岡 正英



発明大賞を受賞された皆さま、おめでとうございます。

皆さんのお話をうかがって、あらためて感じたのは、日本の産業、社会は皆さまのような小さくてもキラリと光る技術をもった企業のた

ゆまぬ努力と創意工夫の上に成り立っているということです。そして、問題を解決し、新たな需要を見いだすには、それまでの常識を疑い、固定概念を捨て、発想を転換するなど、斬新なアイデアによるイノベーションが重要だということです。

活発な研究・技術開発の恩恵もあり、私たちの生活は豊かになりました。しかし、人口減少、少子高齢化、エネルギー・環境問題、防災、テロをはじめとする地政学的リスクなど、対処すべき課題は山積しています。産業・社会はイノベーションを求めています。さらに常識が通じない事態が相次いで起きています。今年には東日本大震災から5年です。想定外、未曾有の大災害と言われましたが、その後もゲリラ豪雨、噴火、竜巻などこれまで経験したことのないような自然災害に繰り返し襲われています。ニューノーマルという言葉があるように、異常気象は常態化。対策は急務です。豊かで利便性が高く、安心・安全な社会を実現するには、粘り強い努力の積み重ねも大切ですが、既存技術では対処できない問題の解決には、常識を覆すような革新的な技術開発や発明が必要です。

昨年末、小型ビジネスジェットを初納入した自動車メーカーのホンダは、航空機事業に参入するにあたり、あらゆる観点から他を圧倒するような優位性が必要と考え、生み出したのが主翼の上に

エンジンを配置する独特の構造です。乱気流が発生し、非効率と言われ、タブーとされたいたこの手法ですが、難問を克服し、同クラスの従来機と比較して17%の燃費低減と30%の室内空間拡大、クラス最高の性能を達成しました。小野薬品のがん治療薬「オブジーボ」は直接、がんを直接たたくのではなく、もともと人間が持っている免疫力を活性化し、がん細胞を攻撃する全く新しいタイプの免疫治療薬です。がん治療の流れを変える「ゲームチェンジャー」として期待されています。

今回、発明大賞本賞を受賞された石川さんの防草技術もまた、植物がもっている特性を利用し、成長を止めるブロックであり、従来の概念にとらわれない発想がもとになっています。そうした一つ一つの技術革新、挑戦が現在、話題になっているロボット革命、IoT、インダストリー4.0といったパラダイムシフトにつながるのであろうと思っています。

皆さんは今回、発明大賞に挑戦し、結果を残されました。今後はこれに続く階段を上ってジャンプアップし、国内、そして世界へと羽ばたかされることでしょう。ただ、大きなビジネスや技術革新をお一人、単独の会社で成し遂げるのは容易ではありません。そこで必要になるのが、複数企業・団体との連携、ネットワークの構築です。今回の賞を主催した日本発明振興協会はもちろん、協力いただいた東京都立産業技術研究センターをはじめとする各地の支援機関、官庁、大学などは強力な後ろ盾になるはずですが、日刊工業新聞社も微力ながらお役に立ちたいと考えています。皆さまのいっそうのご活躍を期待いたしております。本日は、まことにおめでとうございます。